

桜蔭俳話会 五月句会 (第三二五回)

鎌倉(光明寺及び材木座海岸)にて吟行を実施

(吟行後の句会は鎌倉生涯学習センター)

平成二十五年五月二十六日(日)

6点①	もののふの石積港や五月波	友子	浄土宗ご先祖様も立夏かな	直子
5点①	からむしの茂る背丈の六地藏	友子	姫織りし蓮の糸かや曼荼羅軸	幸
4点②	白シャツへ移る潮の香バス待ちぬ	友子	蓮の池亀が首上げお出迎へ	直子
3点②	光明寺夏帽を手に一札す	友子	海はるかサーフィン走るにぎやいて	真三
①	十葉や巨基あつめし五輪塔	秀一	流紋の海に尽きけり夏の砂	守
2点	夏草や内藤家墓所錠固し	守	夏の風総本山の広き像	真三
	寝そべつて夏の浜撮るカメラマン	ヤエ子	五輪塔並びし石段の嶮 <small>いり</small> かな	幸
	泥けむりあげし真鯉の木下閣	秀一	和賀江島昔材木おろしたか	直子
	夏落葉大山門に迎へらる	明美	光明寺新緑高く池の景	真三
	光明寺江戸の木組に夏は来ぬ	直子	蓮池の亀群れなして主の鯉	幸
	行き過ぎて戻りて拾う桜の実	邦子	紫陽花の色づく道に六地藏	邦子
	夏風や枯山水の水の紋	明美	三種の眼鏡一つはサングラス	守
	父と子のサーファー砂を濡らしけり	守	(不在投句 古野明美)	
	夏木立抜けて檀林しづかなり	明美		
1点①	カタカナの卒塔婆のあり夏日影	ヤエ子		
	五輪塔へ葉桜の蔭揺れにけり	友子		
	浜広き初夏の風吹く海広し	真三		
	材木の座の影いづくサーフィンす	明美		
	裏山の緑に映えるつつじかな	邦子		
	首欠けし地藏尊あり十葉咲く	ヤエ子		
	新緑に領主の墓の累々と	幸		
	夏きざす色取り取りのボードかな	ヤエ子		
	浜に曳くサーフボードの重さかな	秀一		
	初夏の渚へ一歩また一歩	明美		
	行交へるウインドサーフィン倒れけり	秀一		
	桜の実熟れ空つぼの乳母車	守		
	べゝ詠歌を詠いし母の座敷夏	ヤエ子		
	三尊五祖白き砂地につつじかな	真三		
	葉桜の風さやさやと銅の屋根	幸		
	五月晴れ海草のにはい材木座	直子		
	心地長き潮風浴びて初吟行	邦子		

「事務局からお知らせ」

次回、定例会句会は次のとおりです。奮ってご参加ください。

- ・期日 六月二十三日(日)午後一時三十分から
- ・場所 桜蔭会館横浜市西区藤棚町二一九七

※ 風薫る薄暑の中の一寺院 邦子
墓うらへ虎猫抜くる朝曇 秀一